

会 議 名	所信表明演説会（副議長選挙）		テーブル番号
			—
開会年月日	令和5年5月11日	開会時刻	午前11時00分
		閉会時刻	午前11時20分
議員 出席名 委員	選考委員会委員長 大塚 英一、選考委員会副委員長 谷野 司、 議員 朝比奈大貴、議員 池辺 貢三、議員 井上 信久、 議員 岡本 笑明、議員 黒川 俊明、議員 西條 徹、 議員 野田 悦子、議員 堀口 陽一、議員 松本 真麗、 議員 丸谷正八郎、議員 丸山 直土、議員 村岡 均、 議員 村田 雅利、議員 森下 巖		
議員 欠席名 委員			
理事者側出席者			
案 件	1. 野田議員による所信表明演説		

(午前11時00分 開会)

○大塚選考委員会委員長 それではただいまから、副議長選挙に係る所信表明演説会を開催いたします。この度副議長選挙に立候補している議員は、野田議員でございます。

それでは野田議員、所信表明をお願いいたします。野田議員。

(野田議員登壇)

○野田議員 この度副議長に立候補いたしました野田悦子でございます。今回このような機会をいただきましたことをまずお礼申し上げます。ありがとうございます。

私が今回2度目の副議長に立候補いたしましたのは、前議長の丸谷議員の下、多くのことを学ばせていただいた、その経験を持っても今期の半数近くが新しく議員となられた方である議会運営には、対処できるのかという思いがあったからです。新たな議長の下、さらに研鑽を積みたいと考えております。

それだけではなく、先ほど堀口議長が述べられておりましたように、市民の皆様方の中で、この議会が何をしているのか、議員たちの役割は何なのか、それが分からないというような声を多く聴いたことがあります。私の中では、議会基本条例、こちらのほうにございますように、3つの柱、その1つ目に市民のための、市民に分かりやすい、市民に開かれた議会、この市民に開かれた議会、これが十分に発揮されてきたのかということがあったからです。

私の中ではこれまで先の議員の方々も培ってこられた、議会基本条例、この制定のときに、議員の皆さんがプレゼンターとなられて、当初私は一市民でありましたけれども、その皆さん方が議会基本条例とは何かということをお知らせする、そんな制定される前の会議に出席をさせていただいた、そのときに議員というのはそういうふう動いているのかと、でも議員さんって選挙のときにあれやります、これやりますって言うのに、議員さん自体だけではできないんだということに改めて気づいた、そのことにも大きく疑問を感じたことがありました。そのように普段市民の皆さん方の中で、議会とは何をしているのかということが、見えていないところが多いのではないのでしょうか。

新しく議員となられる方がたくさん輩出される、今回は多くの方がお辞めになられ、そして新しい方々が立候補されました。これは1つ先ほども出ていましたYouTubeの活用などもありますし、泉大津市議会がこれまで開かれた議会を目指して一步一步積み上げてきた議会傍聴よびかけ隊、そしてまた皆さん方との意見交換会、そういうふうな取組にあるのだと思っております。

しかしながら、議会の意見交換会、こちらは団体からの申込みが今まで多数であった。私が知っている限りこの2期8年間の間では、同じ団体からの申入れ等もありまして、なかなか多くの、一般の市民の方々とお話をする機会というのは少なかったように思っています。

その中で、広報広聴委員会の委員長をさせていただきましたときに、アウトリーチ型のこちらから呼びかけて意見交換会、今回はこのような方々を対象に意見交換会しませんか、次はああいう方々を対象に意見交換会しませんかというような、こちらから持ちかけるような意見交換会をしていこうというふうに、私のほうから提案をさせていただき、当時の議員の皆さん方からオーケーをいただいて、進むことになっていました。その進むことになっていたちょうど矢先、5月に小学校、子育て世代の皆さんを対象に意見交換会をさせていただこうと、保育園の一室を借りてするということで、子供を持っているお母さん方も、子供をしつ

かりと預けて、安心して参加できるそんな取組をしようと進めていた矢先に新型コロナウイルスが発生しました。そのまま立ち消えとなってしまったアウトリーチ型の意見交換会をこれから進めていきたい、そんな思いで前回の議会が最終に終わるときに、広報広聴委員会の次回への繰越しとしてそれを持ち越しとして上げていただくことが、残すことができました。

そのような新しい取組、これを進めていきたい、そんなふうに思っています。現議長がおっしゃられておられたように、少数の意見を聴く、少数の意見をでき得る限り取り込んでいく、それが二元代表制の役割であるというふうにも思っています。

また議会としては、二元代表制を担うという点で、議会がそれを評価するだけではなくて、議決権を持っているということが大きな二元代表制の一翼を担う責任であると思っています。議決権を持っている、ごみ袋のときにこういうことがあったということを紹介していただきました。附帯決議を付けるということも、1つ私たちが、議員ができることです。

それが必要かどうかということは、それ以前に皆さん方と一人一人と皆さんの総意を得なければなりません。そういうふうな働きができるような、本当にこれでいいのかを、もっと議員同士で話し合っていけるような、そんな議会をつくっていきたくて私は思っています。

それをつくっていくのは、議長がどのようにお考えなのかということが大きく左右するというふうに思っておりましたが、先ほど小さな意見も少数の意見も聴きながら進めていくと言っていたその議長の下、議長をお支えし、そしてまた今回新しく議員になられた皆様方、その皆様方が、私自身が1年目の議員であったときに、とてもいろんなことに、分からないことがたくさんありました。皆さん方が今そんな思いをされているのではないかとこのように思っています。

円滑な議会運営に尽力することはもちろんですが、少し先に議員となった経験といまだに議会の流れに不安を持った新人だった頃の思いを持ち続けている議員として、新しく議員になられた方々のサポートにも、議長そして議会事務局とともに当たっていきたくて、そんな思いで今回副議長に立候補させていただきました。

もし皆様方のご賛同を得られれば、もう一度続けての副議長にはなりますが、しっかりと務めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○大塚選考委員会委員長 以上で野田議員の所信表明は終わりました。これから野田議員に対する質疑に入ります。質疑はございませんか。

○池辺議員 ちょっと質問させていただきます。野田議員については、今回2回目の副議長選挙となりますが、前回の副議長選挙では、「機会を得られたら成長して」とおっしゃられていました。この2年間で得られたものは何かあったのか、また副議長を経験してどのように評価をされているのかお聞かせください。

○野田議員 ご質問ありがとうございます。私自身1期目が終わって、2期目の途中から副議長をさせていただきました。議会の中で、議員として強い思いを持っていることもたくさんありました。反対の意見をお持ちの方もたくさんおられる、そんな議会運営の中で、丸谷議長が見せてくださったのは、少数の意見に耳を傾ける、そして少数の意見をどのように生かしていくのか、それを議会全体でどのようにまとめていくのか、その手腕を見せていただきました。私には大きな力になったと思っています。

またもう1つ、他市との交流があります。議長会、南部議長会、大阪府議長会、多くのと

ころへ参加をさせていただきまして、他市の議長、副議長とも面識ができ、その市の中での問題点、そしてそれが泉大津市にも当てはまるのか、その市ではどのように対応しているのか、そのようなことを聞くことができた、これは大きな成長であったというふうに思っています。

○池辺議員 種々ご紹介いただいたんですけれども、前期の2年間で、丸谷議長の下、そのようにたくさんの経験をされたとは思いますが、今回堀口議長の下、副議長に立候補してもしなれたときに、あまり見えてこないんです、議長をお支えしてというところはよくわかるんですけれども、副議長として何をしたいのかというところがあまりよく見えてこなかったのかなというのがちょっと正直なところの感想です。

ちょっとすいませんその意見だけ述べさせていただいて、次に副議長の公務と自身の議員活動の区別についてどのように考えておられるのかお聞かせください。

○野田議員 先ほどそここのところが見えてこなかったということは、質問ではございませんが、見えてこなかったのであれば、私の言葉が足らなかったんだらうなということで、少し補足をさせていただきますと、議会改革という点で、私は8年間の中ずっと考えながら進めてきました。その中で開かれた議会、その中に広報広聴委員会の委員長をさせていただく機会があった、そこで進めてきたアウトリーチ型の意見交換会やこちらからアプローチをしていく、皆さんからの意見でもあったから進んできた、その後池辺議員のほうからも進めていただいた、そのような経験もありますけれども、議会だよりの編纂、そちらのほうにも関わらせていただいた、より読んでもらえるそんな議会だよりに、これも1つのツールだと思っています。それを今後ももう少し具体として進めていきたいというふうに思っています。

副議長と議員との区別ということですが、副議長と議員活動の区別、それ皆さんどのようにつけておられるのか、私のほうではあまりよく分かっていないのかもしれないかもしれません。私自身は副議長としてこちらのほうに立つ場合、その場合は副議長であるけれども、議席のほうで座っているときには、一議員であるというふうに認識しております。

○大塚選考委員会委員長 他に質疑はございませんか。

○黒川議員 新人ながら、僭越ながらご質問させていただきます。

野田議員が言われたように、今回の選挙の結果として、私を含めて新人議員が多くなり、議会運営をスムーズに進行するためにも、引き続き副議長をするのがベターと考えられたと、このことは非常にありがたいこととございます。立候補いただきありがとうございます。

ところがほかの側面を考えますと、そうなりますと副議長の任期は現行の制度では2年です。私たち新人議員以外の先輩議員でも、副議長を経験されておられない方がいらっしゃるとお聞きしております。議長はさすがに議員の経験や実績が必要と考えます。副議長も議員の経験は当然必要でしょうけれども、副議長を経験することでおっしゃられたように、議員としてはより成長できる、こういうこともおっしゃっておられますので、私としてはぜひまだ経験されておられない議員の方に就任していただきたいなと考えました。現行の制度2年の任期で考えますと、私も含めて今回の新人議員が、将来的に副議長を経験しづらくなってしまいます。野田議員は2期目で副議長を経験されておられますけれども、私を含めて今回の新人議員が、もしこのまま引き続き議員として市政に参画させていただけるとすれば、皆が経験できるとすると早くも2期目、遅い人では5期目となってしまいます。この辺りを

どのようにお考えでいらっしゃいますか。

○野田議員 ご質問ありがとうございます。私もそう思います。今回の議長選挙、副議長選挙に当たっては、この泉大津市議会において、3期目で議長を務められるということは今までもありました。また2期目で副議長をとすることは前回私も、また今委員長をしていただいております大塚委員長も2期目で副議長を務めさせていただきました。議長運営が今回新しい方が多いということで、難しいことは重々承知しています。ですが、議長選挙自体がもっとたくさんの方が出て来ていただいて、どの方にしていただくのが一番良いのかというところをしっかりと見ていっていただきたい、そういうふうに思いました。また副議長に関しましても、2期目の方々が手を挙げられるのではないかと、であるならば私はそうしていただきたい、そのような思いでありました。しかしながら、ぎりぎりまでお待ちしても、副議長に手を挙げられる方がいらっしゃらなかった、このままではどういうふうになっていくのか分からない、であるならば、私自身がこの難しい議会運営になるであろう今期をもう一度副議長として経験をさせていただきたい、そのように思ったので、ぎりぎりではございましたが立候補に至りました。よろしいでしょうか。

○大塚選考委員会委員長 他に質疑はございませんか。

○丸谷議員 前期まで私は議長で、野田副議長として、副議長を務められていたんですけれども、私のほうからは議員活動と議会活動の違いについてどのように認識されておられるのか、それをちょっとお聞かせいただきたいと思います。

○野田議員 議員活動と今度は議会活動の違いということです。議会活動とは、議員一人一人の様々な意見、この様々な意見をしっかりと受け止めて小さな意見、少数の意見であっても、それを吸い上げてまとめていく、そして市が出してきたいろんな議案に対して、研鑽をして集約をして、それをしっかりと議決につなげていく、これが議会活動だと思っています。

議員活動は、様々なところに出向いていくことも必要でしょうし、様々な方のご意見を聴くことも必要でしょうし、それぞれの方が様々な議員のスタンスを持っておられ、議員活動をされているというふうに感じております。私には私の議員活動というものがあるのではないかとこのように思っております。

○丸谷議員 議員活動は個人個人の議員活動でそれはそれでいいんですよ。議会活動になると、やはり16分の1、自分の位置がそうなるんです。だから合意形成を取りながら、議会としての活動、議会改革の取組についてもそうですけれども、それを進めていく、今回また役職として副議長になられたら、やはり公務優先でないといけないとこのように思います。

私はちょっときついこと言うようなんですけれども、前期のときに、1日1回は必ず市議会に顔を出していただきたいと言ったんですけれども、それは継続、本当はできていなかったんですよ、野田副議長の場合は。それと、私は東京等に出張行ったときも、議会のほうを安心して預けられると思っていたんですけれども、市役所に登庁されてなかったということもありました。

だからもう少しやはり役職という形でそれはきちっとした議長、副議長という位置づけになってくるんで、その辺の心構えがやはり少し足りないのかなというように感じます。それと先ほど池辺議員のほうからの質問で、議場で議員席にいるときは議員である、議場にいるときはずっと副議長なんですよ。議員席でいても。議長、副議長という立場で、何かあれ

ばすぐ議長を補佐するという形になるんで、その辺の認識も少し甘いのではないかとこのように思っております。だからその辺をもう少し自覚していただいて、これから取り組んでいかなあかんかなと思います。大変きついこと言うようですけども、年長の故、やはりそのことは伝えていきたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。それについての回答は結構です。

○大塚選考委員会委員長 他に質疑はございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○大塚選考委員会委員長 他にないようでありますので質疑を終わります。

野田議員は自席へお戻りください。

以上で泉大津市議会副議長選挙に係る所信表明演説会を終了いたします。

(午前11時20分 閉会)